



AA日本ニューズレター

〒100-91
東京都中央郵便局
私書箱 916

AA 日本ゼネラル・サービス・オフィス TEL 03-3590-5377
〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル 4F FAX 03-3590-5419

No.70

第2回全国オフィススタッフ会議感想記

思えば全国を7つの地域に分ち、1地域に1セントラルオフィスを置こうじゃないかという提案がなされてから、結構な年数が流れた感がありますよね。このニューズレターが届けられるころには、正式に誕生しているんだろうけど、北海道にやっとセントラルオフィスが設置されることになりました。初めて7地域のオフィスのスタッフとJ S Oのスタッフが一堂に会して分かち合う機会が得られました。ちなみに今回のスタッフ会議には、常連のメンバーのほかに、北海道からは決まったばかりのスタッフとオフィス開設の準備段階から関わるメンバーも運営委員の立場から参加してくれ、東北と中部C Oからは新しい女性スタッフが、そして中四国からは、女性の運営委員も参加してくれました。開催地の九州からは6月で退職する職員と、その後任の女性スタッフと、事務局を切り盛りしたオフィス運営委員長がテーブルにつきました。昨年との違いは、女性が増えて華やいだムードが漂っていた点でした。

ところでニューズレターの原稿を依頼されたものの、6月5日(金)、6日(土)、7日(日)にかけて2泊3日で開催された熱気と興奮の分かち合いの模様について、どのように伝達するかで悩み、タバコばかりをふかし、一向に先に進まない状態が何時間も続いています。議事録の掲載にするには紙面が足りない、報告書の形式にすれば味気なくて、その場の雰囲気は伝えられない。完全に開き直り、進行役として参加した者の感想と自分自身が関係する九州沖縄地域C Oとの比較で紙面を埋めることを許していただきます。

《オフィススタッフ会議とは何ぞや》

言葉そのものを素直に解釈すると、セントラルオフィスに勤務する有給の職員の会議ということになります。そしたらパートやボランティアおよびオフィス運営に関係する者はもちろんのこと、メンバーは参加できないのかという単純な疑問がなされますね。果たして2泊3日もかけてスタッフだけで討議

する問題があるのだろうかと思う人もあるかもしれませんが。実際問題としては、ここの問題を詳細に検討した分かち合いをするとなると時間は足りないだろうし、スタッフだけの討議の方が充実すると思うのです。事務局と進行役が今回のプログラムで考えたことは、この機会を利用してメンバーにも参加してもらい、スタッフやオフィスの仕事の中身を知ってもらうことが必要だし、重要なことと考えた点でした。そこで5日の19時から22時までをスタッフおよびオフィス運営に関係する者が討議する会議とし、ただし進行役が必要とした場合には発言をオブザーバーにも認めるオープンの会議としました。(書記を設け、録音を取ることを参加者に了承を得た)

6日午前中は、スタッフだけのクローズドの分かち合いの会議とし、午後九州沖縄地域C Oの見学を組み込みました。そして夕食後オープン形式の質疑討議の集会とさせてもらいました。

《スタッフの待遇について》

それぞれのセントラルオフィスによって、その待遇に大きな格差があることも事実です。それは単に給与だけの問題だけではなく、勤務時間、休暇、各種の保険を含めた福利厚生面でも大きな隔たりがあります。世間相場や物価指数および能力と仕事内容を考慮の判断材料とすると、関東や関西のスタッフの待遇は恵まれたものではないのだが、ほかのセントラルオフィスがお寒い限りなので、羨ましいとさえ感じます。九州の場合には、勤務が月曜から金曜までで1日8時間。給与は10万円。賞与は年間15万円。交通費なし。各種の保険なし。鹿児島地区セントラルオフィス時代も含め、九州のオフィスの職員として十年間勤務してきた人の待遇です。それにしてもどのスタッフも我慢強いと感心します。待遇改善のストライキを起こさないのですから。実際は、ストライキを起こしたくてもオフィスの台所状況を一番理解しているから起こせないのですが。

《パソコンの導入について》

少し前までは電話だけでよかった。けれども現在ではファックスが必要品となった。同じようにワープロで十分だったものが、パソコンを必要とする時代へと移ろうとしている。まだパソコンを設置しているオフィスは少数ですが、導入しているオフィスからの経験の分かち合いをしてもらった。近い将来ネットワークが結ばれることだろう。事務の簡素化、情報の交換、情報伝達をスムーズに行う上からも、パソコン導入を計画的に進める作業に取り掛かる時期にあることを痛感させられました。だれかが提唱した「10万円だしてワープロを買うくらいなら、20万円だしてパソコンを買いましょう」と。

《各委員会とオフィスのネットワークについて》

地域委員会の各委員会や地区の各委員会が機能している地域と機能していない地域のセントラルオフィスとは、オフィスのスタッフが抱える仕事に差が見られます。またボランティアをしないと突然メンバーが訪れたりした場合、仕事を探したり、仕事の内容を説明したりと、職員の負担は肉体だけではなく、精神面にも大きな負担をきたしているのが現状です。九州の場合には、スタッフがメンバーだということもあって、何かと奉仕という名の犠牲を強いられたと言わざるを得ない。各地区のイベントにはほとんど参加し、書籍の販売までやってきた。本来ならば各イベントの実行委員会が受け持つことをオフィスが受け持ってきたのです。オフィスおよびスタッフが本来おこなう業務とおこなわない業務との選別が不十分だったことが討議の中で指摘されたことは、貴重な経験だったと思います。

《最後に思ったこと》

紙面の関係から印象が一番残った項目だけを取り上げましたが、会議ではスタッフ会議の方向や趣旨についても討議され、現在のスタッフ会議についての名称変更なども話し合われました。そのほか書籍の販売価格の価格変動による問題点や処理の方法、オフィスとしての地域内の関係者への広報活動と地域委員会の広報との関係や、ボランティアと職員との協力関係等についても話し合われました。スタッフ会議の報告書が各セントラルオフィスよりグループには届けられることと思います。それぞれのスタッフから、自分自身が感じた報告がなされることと思います。

今後の会議に際して、オブザーバーとして地元から20名の参加がありました。初日のスタッフの分かち合いの討議を聞くことで、2日目の夜の質疑応答



のオープンミーティングは参加者に有意義なものになりました。自分たちがスタッフに対して多大な任務を課していたこと、自分たちがボランティアでできること、手助けできることが理解され、協力していく姿勢が生まれたように思います。

会議といえば窮屈でおもしろみのないものと思われるけれど、オフィススタッフの場合にはそれが当てはまらないように思う。会議という名称にもかかわらず、採決して決定する項目はない。そこにあるのは経験の分かち合いと現場の生の声だ。

セントラルオフィスの業務内容については、案外無頓着なメンバーは多い。ましてやスタッフの待遇や仕事ぶりには無神経である。セントラルオフィスを理解してもらう上でも、そしてスタッフを理解、協力を得ることからも、次回の北海道での開催時にはオープンで話し合われる集会を組み入れていただきたいと願って終わりとします。

書き残しました。わたしの下手な文章では頼りないので、セントラルオフィスに直接訪問するか電話して会議の様態を聞いてください。スタッフはあなたの訪問を期待しているし、あなたの声の便りを待っているものですから。

元運営委員長 岩下

世界のグループ、メンバー数概算

(1998年1月1日現在)

	グループ数	メンバー数
アメリカ	50.997	1.166.079
カナダ	5.277	102.499
矯正施設内(米/カのみ)	2.399	62.129
その他		420
他の国々(約150カ国)	38.895	636.306
	97.568	1.967.433

④ 上記の数字は、ニューヨークのGSOに登録されたグループのみからの報告をもとにしたもので、実数を表すものではありません。

補充常任理事に就任して

このたびの常任理事補充選挙に際しては、地元北海道の評議員の推薦を受け、はからずも当選した金田です。残りの期間は、99年12月までの1年半ですが、よろしく願います。実のところ、大変申し訳ないのですが、これまでの常任理事の動きがあまり見えていません。ですから、当然のことなのだけれど、わたし自身の常任理事としての姿も見えていません。

冒頭より“はからずも当選した”と書きましたが、その所以はその辺から発しています。

今回辞任された常任理事さんより辞表が出ていることを知ったのは、年明けて間もないころです。そのときは、ことの深刻さを考えもせずに1回か2回公示をして、それで候補者がいなければだれかがその担当を兼任して1年間をしのぎ、わたしの地域サービスの任期が切れる来年、再度選挙公示してくれれば、わたしが立候補します、などと笑い話にして話していました。実に不謹慎なことです。

その笑い話が本当のことになり、今回の第1回目の公示では、だれも候補者はありませんでした。その時にはじめて「これはいかん」と思ったのです。

わたしはこの十年間北海道の地域サービスに関わってきました。そうして、これと全く同じ問題に何度も出会い、今現在、任期1年の地域集会議長を努めているのもそれがためです。また、同時に選出されるはずの副議長は、いまだに候補者がおりません。AAの中で酒を断ってきた仲間はたくさんいます。サービスを担うメンバーがいなかったことゆえを、それらの仲間の感謝の気持ちとか責任のなさの類いに単純に結び付けようとは思っていません。義理とか、どちらでもよいというのではなく、心からの実に素直な“あの人がやってもらいたい”との望みと、AAの良心に支えられていることを実感しながら、静かにわき上がる“やってみたい”との気持ちをもつメンバーの疎通こそが健全なサービスを支える、と考えています。

とは言え、現実には候補者がいなかった場合、さまざまな枠を外して、また新たな課題に直面することも予想しながらも“やってもらえる人にやらせよう”“やれる人がやる”との次元に立ってサービスを継続する必要があるのです。

今回の状況もサービスのスケールこそ違い、問題の本質はなんら変わりありません。日本におけるすべてのサービスの責任を付託している機関の選挙に、候補者がいないことは実に寂しいことです。



「選挙、すなわち“お祭り”」のイメージを含めても良いと思っています。小さな一つ一つのこと、ちょっとした願いを託することで、AA全体により力強いエネルギーが宿ってくると信じています。

また、わたしたちAA内部にはさまざまなテーマが混在してるのが常のようですが、グループ(メンバー)がある限り、AAの愛に支えられた結果が提供されるものと信じています。伝統の中に「各グループの主要目的はただ一つ、まだ苦しんでいるアルコホリックにメッセージを運ぶこと」とあります。困ったときは、何度でもここに立ち戻り、再出発を試みましょう。そうすることで、さらに“大きな絆”という財産が与えられ、成長して行くのでしょうか。(新常任理事としての抱負よりも、むしろ立候補の動機を書かしていただきましたが、わたし=井中蛙の名前が示すとうり、一処からいつまでたっても抜け出せていないテーマなもので“引け目”を感じちゃっています。明日は、大海に出られるかもしれません)

今回、常任理事として登壇するにあたって“常任理事の動きも見えていない”“常任理事としての姿も分からない”では、あまりにかわいそうということで、ニューズレター編集局より「あなたの地域の土産話を書いてもらいたい」との了解を得ましたので、日本各地の地域サービスで、一番最後になってしまいました。北海道にもようやくサービスオフィスが開設されたことを全国に向けて報告いたします。はじめに了解を得たいのですが、この報告は全体の流れの報告ではありません。長い時間をかけてここまでに至った中から、全国各地域、グループに分かち合っていたきたい事柄にとどめたいと思います。また、これまで関わってきた一人としてのわたしの報告であることも確認させていただきます。

振り返ってみると、北海道では実に長い間このオフィスをもつことにエネルギーを使ってきました。90年頃からオフィスのことは議題としてあがっていたと思います。地方のグループからは、AA人としての心の拠り所、札幌に出掛けたときの落ち着き

場所をとる要望が強く、札幌周辺のグループからはサービスの取りまとめとしてのオフィスが望まれました。開設する、しないは後で検討するとしてその可能性を探ってみることとなり“オフィス設置準備検討委員会”を設けたのが始まりでした。また、このテーマの認識のずれ違いの始まりでもありました。当時から今日に至るまでオフィスが欲しいというのは、全グループが一致していましたから認識がずれ違って仕方がなかったのかも知れません。しかし、準備委員会ではなく、準備検討委員会だったのですが、準備委員会として進んでしまいました。どうしてそうなってしまったのか分かりませんが（当時わたしは副議長でした）そのことが、陰の議論を誘発し、陰の議論のなかで委員長の責任が問われてしまったと強く感じています。その結果、いくら笛を吹けどもだれも踊るところか、振り向きもしないのです。委員会と言えば、回を重ねるたびにメンバーが減り、委員会を続けることができなくなりました。さらに、地域集会としての結論は、「メンバーがいらないのでは仕方がない。当面、委員会を解散する」というものです。

この時間的経過（勝手にやれや、の時代）は、2年あまりにもなります。このことに引き続いて、地域委員会の凍結と動いていきます。その時も「メンバーがいらないので…」となっています。（当時は議長でした。この件については、GSMにおいて報告

させていただきました。

97年度の地域集会において、サービス凍結解除および地域委員会再編に先立ち、凍結に至った再々度の棚卸しにおいて、「地域集会を構成するメンバー一人一人が愚かだったのだ」との一発言があり、反対意見を述べるものはだれもいませんでした。たったこの一言の発言が出るまでに4年かかったのです。

さまざまな要素が入り組んだ組織の棚卸しの難しさと、それなしでは前に進まないとの意味での重要性を今日（オフィスのオープン準備完了の報告あり）改めて振り返って思うのです。

「メンバーがいらないので仕方がない」との認識に至った当時の状況は十分わかっての上での、当時の“痛み”を経験した北海道の仲間には“のべ伝え”の実行を呼びかけたいのです。同時に全国の仲間とも分かち合いたいのです。

北海道 金田



北海道セントラルオフィス開設のお知らせ

北海道セントラルオフィス（HCO）が6月10日に開設され業務を開始しております。地域内にAA情報を発信する基地として、地域の関係者やまだ苦しんでいるアルコールクがAAに連絡をとる窓口としての役割を果たすため、オフィス職員、運営委員一同皆様のご期待に添うよう精一杯努めさせていただきます。

062-0934 札幌市豊平区平岸4条3丁目1-29 マンション・カワイ1F1号

AA北海道セントラルオフィス

TEL/FAX 011-811-3770 業務時間 13:00~16:30（土・日・祝日休み）

JSO引っ越し完了

前号でもお知らせしたJSOの引っ越しが無事終了し、6月29日から新オフィスで業務を開始しております。皆様のお越しを心からお待ちしています。なお、電話番号、FAX番号は変更ありません。

新住所

〒171-0014 東京都豊島区池袋4-17-10 土屋ビル4F

【池袋4丁目バス停から徒歩3分】池袋東口三越前のバスターミナルから 光02、赤51、池55、練93をご利用ください。徒歩ですと、池袋駅、有楽町線要町から、約20分ほどです。